

安全の誓い

広島県における建設業の労働災害は、労使が協調して労働災害防止対策を展開された結果、長期的には減少し、この5年間は増減を繰り返しておりました。

しかしながら、令和2年の労働災害による死亡者は2人と減少しましたが、新型コロナウイルスの影響もあり、休業4日以上之死傷者数は363人と昨年より26人の増加に転じ、今年度も増加傾向が見られます。

このような状況の中、従前から技術者・技能労働者の不足、建設労働者の高齢化の進行、外国人労働者への対応、長時間労働やメンタル不調による健康リスクの増大への取組みが課題となります。労働災害を減少させるためには、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う社会情勢に対応して、将来を見据えた持続可能な安全管理を継続実施していく必要があります。

われわれ建設業に携わる関係者は、「第8次建設業労働災害防止5カ年計画」に示されている、死亡災害及び墜落・転落による死傷災害並びに休業4日以上之死傷災害の発生件数の減少目標を達成するため、経営トップの強力なリーダーシップの下に、リスクを摘み取り、安全最優先、労働災害は必ず防ぐという強い信念を持ち、次のことを重点に安全衛生活動を実施いたします。

1. 「安全はすべてに優先する」現場づくりの推進
2. 墜落・転落災害、建設機械・クレーン災害、崩壊・倒壊災害の防止対策の徹底
3. リスクアセスメント結果に基づく措置の確実な実施
4. 経営トップ等のパトロールによる現場従事者の安全意識の喚起
5. メンタルヘルス対策の実施、コロナ対策を含めた健康管理の推進
6. 魅力的で安全・快適な職場環境の形成と働き方改革の推進

以上、全員参加で、安全で快適な職場づくりに邁進することをここに誓います。

令和3年9月9日

第55回 広島県建設業労働災害防止大会